明治三十一年四月十八日印刷
明治三十一年四月二十日發行

婦人衛生雜誌

第百一號

私立
大日本婦人衛生會

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

大日本婦人衛生雜誌 第百一號 目次

講演

◉衛生上の感を述べらる 醫學士 山根正次君
◉軍隊と衛生との關係に就て 陸軍歩兵大尉 堀内伊太郎君

衛生叢談

◉耳内の異物に就て
◉衂血
◉齒病
◉咽喉炎
◉喀血
◉吐血
◉流産と早産に就て
◉幼兒に對する心得
◉惡阻に就て
◉毒物のこと
◉牛肉良否鑑別法
◉大日本婦人衛生會記事
◉廣告數件

大日本婦人衛生雜誌 第百號 目次

講演

◉人乳の改良 衛生試驗所技手 丸山長四郎君

衛生叢談

◉急性胃加多兒の時の心得
◉小便に就きて
◉大日本婦人衛生會景況
◉廣告數件

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

婦人衛生雜誌第百壹號
（明治三十一年四月二十日發行）

講演

●衛生上の感を述べらる

醫學士　山根正次君

私は只今御紹介の山根正次で有ります、私は今日此席に演説をしに參ッた譯では有りませぬが、一言皆樣に御注意を申して置きたい事がございまして、此演壇に登りましたので有ります只今宮本君が御魚の骨に就て諄々演せられまして、皆樣は大層に結構な御馳走に御成りあそばした事と考へます、加ふるにお正月早々から御錢を釣る器械を御覽になつたと云ふのは大へんに結構な事と思ひますなか〱御錢を釣る器械が無いので、私共は色々御饒舌を致し、一生懸命に働いて居る譯で有ります……どうか澤山お錢の釣れる器械が欲しいと思ひます。さてそのお錢を釣る器械の一番好いものは何かと云ふに、私は人が衛生を重ずると云ふ事で有らうと思ひます。斯う申したら皆樣は何故衛生がお錢を釣る器械かと御尋ねになるでありませう、其所以は即ち衛生會が有ればこそ、今の如く魚の骨の御話も聽かれ、又御錢を釣る器械をも御覽になるのであります。抑々人が衛生を守ると云ふのはからだを健康に保つ故で、即ちお錢を釣る本は身體が丈夫でなければならない、からだが丈夫でなければいくらお錢が落ちて居つても釣ることは出來ませぬ。身躰が虛弱にして病氣になると、自分が苦しい思ひをするのみならず、醫

師には診察料を拂ひ、藥價を拂うと云ふやうに却てお錢の損をしなければならない、そこでからだを大切にすることが、お錢を釣るのに最必要で有りませうと思ひます。その人々の身躰の健康にならむことを望むが故に衛生會などといふものを設けられまして、頻りに衛生の道を講じて居るので有ります。然るに今日は斯く澤山に御集りになりましたのは誠に未曾有の事であらうと存じます、私は大へんに喜ばしく思ひまする。ソレで私が特に皆様に望む處は、前回に演説をしましたときにも願ッたので有りますが、どうか皆様は此婦人衛生會なるものゝ發達を御助けになッて、益々多くの會員の出來るやうにしたいと思ひまする。一家の内に在ッて其家族の衛生を主るものは御婦人故、其任に在る婦人が衛生思想に乏しくして、食物の撰擇調理の方法も宜きに適はぬとか、病人があッても處置が惡るいとか云ふ樣なことの無い樣に、能くそれ等の事を御心得になッて、向後衛生が益々盛になり、一戶々々の衛生が充分に行はるれば戶々相寄ッて成る處の一國の衛生が發達する譯で有ります若し婦人に衛生思想が乏しきときは世の開明を充分に遂げ、安全に國を守るとは出來ないと思ふ、言ひ換えれば婦人の衛生思想が發達しないと國を亡す樣にもなると思ひます則ち婦人衛生會はそれ等の事を研究會得し、弘く衛生の普及せらるゝ事を目的として居ります、皆様は此衛生會に御出になりまして、演説を御聞になり又趣意書を御覧になりまして、如何にも婦人衛生會は益になるから入會して遣らうと云ふ御考へを抱かれましたならば、御家に御歸りの上は御父樣御母樣に

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

も御相談を成さッて御入會あらむことを望みます尙は此會に這入ると衛生上、有益なる談話も聽かれ、又お錢を釣る器械などもあッて、其事を掲載せる雜誌を毎月配布せらるゝ誠に有益な會であると云ふことを確と御認めにありましたら、人をも勸めて入會させると云ふことにしたら益する處が多からうと思ひます、序でに私が前會に演説をしましたとき屢々申しました迷信と云ふことに就て少し附加へて申したいことが有りますから、ソレを些し述べて演壇を下らうと思ふので有ります。」

私は是れまで、迷ひ信ずると云ふことは不可事とおもつて居りましたが、世間には多くの迷信者が有りまして、お札を貼ッて盜難が逃れられると思ひ、或ば又神佛の像を貼るとかいろ〳〵の事を致します、私はソレ等の事を見まして密に害ばかりの樣に考へて居りました然るに此頃或其方の學者に、お札を貼ると果して災難は逃れられるもので有らうか、天然痘の流行するときは佐々良三八郎或は鎮西八郎爲朝、若くは井上角五郎なぞゝ書くのはどう云ふ理由かと尋ねて見ましたら、答へて曰ふに、何もあれを以て必ずしも病氣が逃れられると云ふのではない昔は神佛の像或はお札を貼るのは人々が注意を惹起す爲めにする、丁度火の用心と云ふ事を行燈に書いて置くと同じであると云ふことを聽き、私は成程と感服を致しました。盜難除の護り札が戸口に貼ッてあると、之を見る人が、用心をしなければならむと云ふことに氣が附く、ソレを此頃の人は盜難除の護り札を貼ッて一向安心して了うがそれは大に誤ッて居る、又疱瘡の流行するときに札を貼るのも皆注意の爲めに

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

するのである其他室内の掃除及び井戸の掃除等にも怠りのない様に、彼方此方に札を貼ッて其注意を促したのであると云ふことを聽きました。然るに此頃の人はあれを以て大概病氣災難が防げると思ふて安心をして仕舞ッて注意をしないのは大間違ひであると思ひます。注意の爲めに貼ッて置く札であるから盜難除の護り札を見ては戶締を固くしなければならぬと云ふことを思ひ、佐々良三八郎を見ては早く種痘をしなければならぬと云ふ考へを起すやうにしなければならぬと思ひます斯う云ふ譯であれば札を貼るのも決して惡るい事ではないので有りまする、昔はそれを以て盜難病氣が逃れられると思ッたのではない、然るに今の人は誤ッて考ふるものが多いやうで有りますから鳥渡皆様に御注意を申したのである。ソレで人と云ふものはなんでも時節到來だと云ふことを思ふてはならない日頃衛生と云ふ事を能く守ッて用心をして居なければならぬので有ります、病氣になるのも所謂時節到來だと思ふてはなりませぬ昔蓮如上人と申す人が云はれた言があります人と云ふものは充分に用心に用心をして居ッて而して來たるのが始めて時節到來である、用心の惡るい爲めに來たる事は時節到來とはいはれぬと云ふことを言はれましたが誠に金言でありますが、是れは衛生上に取ッて誠に好き語であると私は記憶をして居ります天然痘の流行する時には迅く種痘をなし、惡疫の流行するときには嚴に其豫防法を施し衛生を守ッて居るのに、而も病氣が來るのは如何にも時節到來と言ッて宜い、併ながら飲み食を勝手にし胃病を起すか或は風をひき下利をする等の

事をして時節到來とは申されません無用心から來るので有りますからであります此蓮如上人と云ふ御方は、後に惠燈大師と云ふ大師の尊號を　天子樣から下された御方でありますが、私は前に言ふ語を衛生上に用ひて最適當と認めるので有ります る私はれ正月の福引として此語を献じ、今後益々皆樣の御健康を祈り、且つ又本會の愈々隆盛あらむことを冀望して茲に一言を陳じたる次第で有りますする

◉軍隊と衛生との關係に就て

陸軍步兵大尉　堀内伊太郎君

只今は宮本君から私を皆さんに御紹介下さいまして、其上何か私に對して謝辭を御述べ下さいましたけれども、私は何も盡力も致しませぬ。たゞ此處に今日皆樣の御集合になることだけを御依賴を受けて取計ッたのでございます。ソレから宮本君が私に何か談話をして呉れとの御依賴でございますけれども私は何の考へも御座いません、殊に斯う云ふ宗旨違ひの軍人でございますから、何うも衛生と云ふ事に對して申します事は餘程むづかしいのでございます併し又一方から考へて見ますと此御會と私等の軍隊とは或事に就ては立派な關係を持ッて居りますと思ひます、故に其事に就て少しばかり御話を致したうございます、只今宮本君から御聞き申しましたが此會は今日迄の歷史上より言ふも、既に軍隊と關係の有ることは、善く分ります即ち二十七八年清國との戰爭に際して此御會より兵隊に襦袢等を御贈り下すッたその爲め

に、此程賞勳局より銀盃を拜受されたさうでございますが、是れは實に誰れが聞いても愉快のことで御座います、特に我々軍人は御會の爲に賀すると同時に又大に謝することでございます、是等の事が已に此御會と軍隊との關係の一般を顯はして居ります、就ては嘗て軍隊に襦袢等を御送り下すッた輙ち貴婦人方の御志と云ふものを、戰時のみでなしに、平時に於ても始終軍隊に向けて御貰ひ申したいのでございます。戰爭は常に絶えず有るものではなく、屢々干戈を動かすにしても、大戰爭は十年に一遍か或は五年に一遍と云ふ樣な割合デ御座います、故に平時にあッても軍隊に始終御注意を願ひたいので有ります、平時御注意を下すッたならば戰爭の時襦袢を御送り下すッたと同一の結果を得ることゝ考へます、ソレならば何う云ふ注意を爲して下さッたならば宜しからうか、輙ち其希望を鳥渡申上げます。

其希望を述ぶる前に、軍隊に於ては平日は皆何をして居るかを申せば、その多くの事は教育でございます。此教育の事と云ふものは、大部分は衛生に關係して居ります、故に軍隊でも衛生の事に就ては非常に注意をして居ります。丁度近比一般の小學等で漸々學校衛生が盛に行はれて參るやうにありましたが、あゝ云ふ樣な工合に軍隊に於ても衛生の事に就ては、中々嚴重に注意をして居ります。併ながら此軍隊の教育と云ふものゝ其元は何處に在るかと云ふに、矢張り一般社會の方に御座います。輙ち小學校中學校、或はソレに相當する塾等に軍隊の教育と云ふものは始まッて居るので有りまして、軍隊に入ッて後初めて軍隊の教育と

云ふものが起るのではございます。然れば軍隊の教育は單に其元か小中學校に在るかと云ふに、其復元が有ります、ソレは即ち家庭に於ける衞生で御座います。則ち家庭の衞生が、何に拘らず元となるものでございます、而して此家庭に於ける衞生は主として誰れの任かと言ひますと、男子は晨夕外に出て到底之に與かることが出來ませぬから、與ッて力あるものは常に内に在て一家を經營せらるゝ處の御婦人方で御座います、若し此御婦人方の注意が行屆かなかッたならば、健康の兒が出來ない、健康な兒が出來ないと成長して後軍隊に入ッて來ましても、少し今日のやうに寒い日に行軍でもすると、直きに感冒をひく或ひ少しく驅歩をすれば直ぐに疲勞すると云ふ樣に、謂はゞ飴細工の樣な甚だ薄弱な軍人が出來るやうになります、固とより金言にある如く、健康の身躰でなければ堅確なる志操は持てない、健康の身体、確乎たる精神の無きものには、君を念ひ、國家を安全に守ると云ふ、輙ち一人前の軍人の仕事は到底出來ませぬ、新兵若くは生徒が身体撿査を受け衆人の中より撰ばれて、健康の者として這入ッて來た者でさい、ソレでも弱い人間が往々有る、其理由を段々調査して見ますると、前の松本君の御講話にも乳の事が出ましたが入營して來た兵等の弱いのは、乳母の乳が惡るかッたとか、母が弱かッたとか衞生上の注意が足りないとか云ふ原因を持ッて居るものが多く有りました。爾う云ふ理由で有りますから家庭に於ける幼時の注意が屆いて居りませぬと、到底軍隊の中で一人前の事をするからだにはなれませぬ。少し極端かも知りませんが

言ひ換えれば家庭に於ける內政を經營される御婦人の注意の惡しき爲め、さう云ふ弱い子が出來ますと、迚も軍隊には充分に國を堅く守る兵隊は出來ない譯になります、故に簡單に言ひますと、家庭に於ける衛生の主任者は、一家を經營される處の御婦人方でありまして若しも此御婦人方の注意が惡るいと健康の小兒が出來ない、健康の小兒が出來ないと強い兵隊が出來ない、強い兵隊が出來ないと如何なりますか、此美麗なる我々の日本國と云ふものは忽ち亡びて了ひます。ソコで私は軍人として、社會からさう云ふ弱い兵を送らるゝことを望まない、充分に國を守ることの出來る立派な志操を抱き、身躰は頗る健全にして寒暑をも能く凌ぎ得る兵を送られむことを切に冀望します。而して爾う云ふ結果を得るに就て、誰れが一番深い關係を持ッて居るかと云ふに、先づ御婦人社會殊に此御會の如きは卒先してさう云ふ事に力を盡さるゝ方々故、軍隊との關係も、自然特別に深く結ばれて居ることゝ考へます、私の今述べたる如き冀望を充たすに就ても決して六ケ敷い事は無ひと思ひます。只皆樣は軍隊と婦人とは斯う云ふ關係が有ッて、之からうまく往かなければ、我々の此帝國は遂に亡びると云ふ御考へを毎日忘れずに御持ち下さッて軍隊に注意して居て戴きたい。果して爾うなりますれば戰爭の際に襦袢を贈ッて下すッたと少しも讓らぬ讓らぬ所ではない數百千陪の利益が軍隊に來るのでございます。衛生上の手段方法に就ては專門の方が御講話御實施なさるで御ざいませうが、私は只自分の職分上から鳥渡冀望を述べたのでございます、差當り深く考ふる迄

もありませぬから甚だつまらぬことを不順序に申上げました、どうか御判斷をあすッて御聽き取りあらむことを願ひます。

衛生叢談

●耳内の異物に就て

耳内に異物豆或は麥粒等入たる時は水に逢て膨るゝの性あり故に此等にありては微温湯の代りに油を用ふるを良とす又小虫入りて出でざる時は先靜かに頭を反對の方に傾け徐に温めたる油を耳内に滿る程十分に注ぎ込むべし然るときは小虫は自然に油の上に浮ひて自ら出べし若し又夜中あれば先つ患者を暗處に居らしめ急に燭火を取りて耳前に持來す時は其光を慕ひて自然に耳内より出るとあり又堆集したる耵聹耳中を塞ぐものは先二三日間つゞきて頻回微温湯を耳中に注入し凝固したるものゝ漸次に軟化するを待て徐かに取除くべし

右の方法の他鉸叉は細き棒等にて耳中の異物を除くには靜かに此等の器を耳道の壁と異物との間に挿入して搖き出すべし但此際は極めて注意せざれは其器械の爲に異物却ッて益深く入りて出易からず或は器械又は異物の爲め皷膜を毀傷するの恐あり特に小兒などにありては躁ぎ易きが故に最も危險なり故に出でさるときは醫の診を乞ふべし

●衄血

衄血は強く逆上せし時若くは夏日炎天を犯して劇しき動作を爲す等の際に起る事多きものなり特に身の弱きものよりは强壯多血の人に起りやすし又人によりては其体質天然に甚た出血し易きものあ

り衄血は通常甚しき危險なしと雖とも時として多量に出血して止まざる事あり故に次に掲くる方法を施すも止血せざるか又は最初より出血多量なる時は下に述ぶる手當をなし醫治を待つべし

衄血を發するものある時は先ッ着服をくつろげ特に襟飾及紐等を除きて後清淨の處に安坐せしめ衄血せる鼻孔より清淨なる冷水を吸ひ込ませ之と同時に同し冷水を鼻の上、前額及顳顬に灌くべし此くする事暫時にして患者稍冷涼を覺ゆる頃更に冷水を飲ましむべし此法にて通例は止血するなり又場合によりては手指にて兩方より鼻翼を撮みて暫時鼻孔を壓閉するか又は綿にて鼻孔を栓塞するも宜し或は是等に兼ねて項部に冷水を灌きて効あり是等の法を行ふも止血せざる時は清淨の冷水中に酢又は明礬を加へて酢は直に水に滴すべし明礬は塊りのまゝ水に混すれば程なく溶るものなり水五合に明礬凡そ二分五厘位、酢は二十四五滴の割合にて混しべす前の方法にて吸入せしめ又は硝子若くはごむの注射器にて之を鼻内に注入すべし此時は豫て沸騰散を内服せしむるを良とす其他豫て冷水を鼻の上、前額等に灌く事前法に同し

唯戒むべき事は衄血の際に體を俯し頭首を前方に屈して鼻汁を吸ひ又は妄りに鼻上を壓迫し又布片其他の物にて鼻邊を拭ふなどは皆害となる故に決して爲すべからず成るべく頭首を直立の位置となし吸氣を努めて深く長くし体を靜かに保ち之れに兼て兩臂を上る時は止血を助くるの効あり又衄血止りて後も暫時は成るべく温暖の飲料酒類等の飲用を避けしむべし

附加

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

鼻加答兒(ハナカゼ)は最も多き病にして鼻內の粘膜赤く腫れ鼻道塞がりて鼻根と眉間との深部に一異の感覺ありて噴嚔を催ふし初めは多量の稀薄なる鼻汁を漏らし漸くにして其汁稠厚となるものなり此症に罹る時は第一發汗を促すを良とす其法は温湯若くは温牛乳、温葛湯、蕎麥湯を多量に服用し又外部よりも十分に温を保ち發汗を促すべし或は薄荷葉又は「カミルレ」と折骨木を等分に浸劑を製り之を飮むべし若し鼻加答兒進む時は次第に咽頭、喉頭、氣管尙ほ甚しきときは肺にも波及す喉頭に及ぶ時は其部燥きて痒痛の感ありて咳嗽強く時としては聲嗄れ胸部に痛みを覺ゆべし

療法は咽頭に燥痒を覺えて咳嗽の出るものには頸の圍りに冷水罨法とて手拭の如き布片に冷水を浸し之を頸に卷きつけ其上に厚き布片を纏ひ一夜冷へざる樣に床に入るべし明朝大に輕快になるものなり

◉齒病

之も數多し其中多きものは齲齒、齒痛、及齒根膿潰等なり

齲齒は其人の生れ附きに因ものなりと雖とも亦飮食其外齒の養生を怠り或は其宜しきを得ぬが爲に起る事多し猥りに硬きものを咬み破り又は熱物と冷物とを互に飮食し又は口內の掃除宜しからずして食物滓の齒根等に積滯するが如きは皆齲齒又は齒の損傷を誘ひ起すの原因となるものあり其他常に齒ノ攝養宜しからず清潔にすることを怠るときは假令齲齒を誘ひ起すに至らざるも多くは齒石を生じて齒根緩るみ遂には咀嚼の用に堪へざると間

々あり故に上記の事を避くると共に飮食の後には其都度必ず清水を含みて能く口中を洗ひ木製の小なる楊枝にて齒間に狭まりたる食渣を掃除し次に齒刷子にて齒の內外面を摩擦して齒石の堆積を防くべし

齒痛は齲齒に起ることあり或は未た齲齒とならぬもの、起ることあり齒痛を發したる時は微温湯又は塩湯にて口内を清淨となし又屢々之を含嗽し兼て頬に芥子油を擦入し綿にて其上を被ひ又は耳の後に芥子泥を貼するを良とす

齲齒にて興るものは先つ口内を能く洗ひ小さき綿の塊を作りて齲齒の孔内を十分に淸く刷ひ更に二十倍石炭酸水（水百分、石炭酸五分）を浸したる綿球にて舌と頬の內面に觸れぬ樣に孔を塡めて前後の方を行ふべし

齲齒漸々侵蝕せられて齒根に及ふ時は終に齒の生へ居る骨をも侵して齦肉の內に膿を醸し遂に頬若くは頤下に小孔を生じ是より絶へず膿液を漏すに至る事あり此症にありては絶えず微温湯若くはかみるれ煎の含嗽を怠らずなすべし是上記の諸法を行ふ時は多くは一時の苦痛を緩解するも中には著るく痛を緩解せざるものあり孰れにしても此等の處置を爲して後齒醫に行くべし

◉咽喉炎

咽喉炎と云ふは飮食物の嚥下に際し咽頭に一種の痛を覺ゆる症にして口中を窺へば軟口蓋は赤色を呈し懸擁垂腫れて大となり扁桃腺（咽頭の兩側にありて梅肉狀をなすもの）も腫れて大となり言語に鼻聲となる此症に罹りしものも亦十分發汗法を行なひ明礬水又は鹽剝水を含嗽せしめ兼て頸回

の冷水法を行ふべし
此咽喉炎は屢々實布的里亞に變ずるとあり故に前記の方法を行ひて後は速に醫の診を乞ふべし俗に「ノドケ」と稱するは咽喉炎、實布的里亞、格呂布(馬脾風)等の總稱なれとも咽喉炎は通常危險の病に非ず次に二症は恐るべき傳染性の病なれば前に擧ぐる咽喉の症狀を發するときは速に醫診を乞ふべし蓋し三病共最初は殆ど一樣の症狀を顯はすものなればなり

◎喀血

喀血とは呼吸道特に氣管又は肺臟より鮮紅にして泡沫を含みたる流動性の血液を喀血するものを云ふ(凝固したるものを云はず)多くは咳に沿ふて起るも時としては咳なく卒然として來り或は一時に多量を喀出し或は多少の喀血數回反復して起るとあり喀血の來る前には通例胸の深部に一種物の充滿して厂迫せらるゝが如き感覺と温暖とを覺え呼吸窘迫、心機亢進し次で喉頭に一種の灼熱と搔痒とを覺え此時早く喀血の前兆たるべき事を察して速かに相當の處置を施す時は大に病勢を挫きうるものなり則ち喀血の前兆たるべきとを察知したる時は次の處置をなすべし
先つ患者の衣服を緩るめ少し上身を高くして靜臥せしめ胸部の服を開きて充分に胸部の冷水罨法を行ひ或は直に冷水を注くも可なり次に濃厚なる食鹽水を(食鹽に少しの水を加へる位にて宜し)飲用せしむべし或は沸騰散一二包を服せしむるも可なり此くして患者は極めて安靜にして少しも動搖せしめず又嚴に言語を禁ずべし右の處置を爲したる后若くは爲すと同時に速に醫に報告して診を

乞ふべし特に咯血大量なる時は速に醫の診を乞ふべし止血したる后と雖とも極めて身體を安靜にし務めて言語を避け醫の命あるに非ざれば決して起臥動搖等を爲さしむべからず

●吐血

之は食道又は胃より血液を吐出するを云ふ其血な暗色稀れには黑褐色にして泡沫なく多くは凝まりて流動せず此症と亦發する前心窩より胸に亘りて一種充滿の感覺嘔氣を催ふし尋て吐血す此症に於ても上半身を少しく高くなし牀中に靜臥せしめ心窩に冷罨法を施し兼て氷水若くは氷片を少し宛頻回與へ且飮食物は一切禁すへし其他の處置は咯血の手當に同じ

●流產と早產に就きて

流產とは胎兒の滿七ヶ月以前に分娩せらるゝを云ひ早產とは七ヶ月以後十ヶ月以前に產出せらるゝを云ふ其原因は共に同一にして之を二となす一方は胎兒の死亡に因るもの他方は母體並に胎兒の疾患に基くものとなり而して胎兒の死亡の原因には種々ありて第一毒物の母體より直ちに胎兒に移行するものにして梅毒又は毒藥によるもの第二母體熱性病の體溫高度なるによるもの第三胎兒の營養不良なるもの第四外傷にして直ちに胎兒を害し若くは卵膜の剝離を生せしめ爲めに胎兒を死に至らしむるもの是なり又母体並に胎兒の疾患は更に四種に小分すれば次の如し第一母体の重症疾患即ち熱性病大失血等なり就中熱性病は小兒の死を致すことあれども亦死に至らずして早期に產出するとあり第二子宮の位置準常ならず又は卵巢囊腫等にして子宮の增大を障害するもの第三精神感動、外

傷、墮胎藥、强劇の下劑、過劇の交接、冷水浴、脚浴等の如き障害第四卵膜の異常即ち子宮内膜炎、羊膜水腫、雙胎等是れなり故に姙娠したる時は成るへく母體に障害を來たさゝる樣注意して攝生を重んずると必要なれは寒き日などには家の内に在り輕しく外出して感冒に罹らぬ樣注意し食物の停滯を防ぎ便通を良くし適當に運動をなし分娩に際し天然に任するやう心懸くると肝要なり然るに間々其身は姙娠をなしながら養生をもなさず漫りに暴食或は運動を過度ならしめ前記の如き流產又は早產を誘起する輩あるを視る實に憐むべきの極と云ふべし

◉幼兒に對する心得

余此頃第一醫院產科婦人科に在り閑に乘じて古の產科書を繙き斯學の如何に進歩したるやを古今比較せんするに當り種々珍奇なる學理論説いと多かる中に藤崎子春氏の著述に係る產育大概てふ書中に產婦の診斷及び處置小兒の鑑定及び諸病治療方を説明せられたるを讀み大に當時の醫學衛生の比較的進歩したるを感し之を抄錄して大方の一覽に供せんとす

右の中產婦に屬すべき所は茲に略省し單に小兒に繫る所のみを略記すべし

一紅花湯（俗にマクリと云ふ）

初生兒に此紅花湯を與へて胎毒を去るべし又與へて乳汁の代りとなす兒生れて十八時間は乳を與へずして此紅花湯を與へ十八時を經て後ちに乳汁を與ふべし

一初め生れて湯をつかはすべし又た三ッ目の湯もつかはすべし七夜にもつかはせるがよし虛弱の

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

兒は湯を忌むべし近來產湯をつかはせざる者あり之れに從ふべからず浴して胎毒汚穢を洗ひ去るを佳とす

一初生の兒胎毒さかんなる者には紫圓を與ふべし過用すべからず紫圓を用て一時に胎毒を下すは可なり長服すれば其兒必ず巴豆の毒にかぶれて頭瘡を發す心得べきことなり近世紫圓を用ふること流行して醫家俗家ともに日用す故に賣藥の胎毒下しと稱するもの皆是れ巴豆入の方あり多くは紫圓を賣る必ず用ふべからず

一初生より三十余日の間は紅花湯を用て胎內の毒を去るべし之は上策なり

一初生の兒脉を診しても分りかぬるものなり隨分心を閑かにして見るべし

一初生の兒は脉を見分けがたきものなれば心下を能々按して心下やはらかなる兒なれば氣つかひなし心下かたき者は由斷せずして紅花湯方中大黃を倍し用て大便を下すへし又紫圓を用て胎毒を去るべし胎毒下れば胎毒衝心して急變の患なし

一初生の兒大便かたまりたるもの（大人の便の如くにかたまりたるなり）は急變あり恐るべし早く大便を下して胎內の熱毒を去るべし大便やはらぎ下るときは衝心の患をまぬかる

一初生の兒両手を開きてゆつたりとして居るものは多くは健かなり胎毒癇癖虛弱の兒は手を握りつめて居るものあり

一初生の兒左右芙容（穴の邊）を診し見るに癖積胸脇の內より凝りて出るものあり此小兒生長の後必ず癇積もちにある故に胎毒を下すべし

一小兒身熱甚しく灼か如く痰喘起りて呼吸促迫するものは恐るべし清熱湯を用ふべし身熱なくして痰喘つよく呼吸促迫するものは小青龍湯を用ふべし

一初生兒の鼻つまる者多く胎毒上部に凝るなり三椎に灸するもよし外邪を受け鼻塞るものは灸を忌むべし何れにも鼻くろを取除くべし

一急驚風熱甚しきものは外邪より起るあり發汗を佳とす熱强くして搐搦するものにも蛔虫心胸へ上りて引付るものあり蛔虫より起るものには鷓胡菜湯を用ふべし蛔虫下る時は搐搦をさまりて快寐をうべし

一慢驚風の症は吐痢の後起るもの多し急驚風は口禁搐搦はげしく起る慢驚風は引付も至てゆるやかなり然れとも急驚は十中七八人を活すれとも慢驚は十中八九人迄は治せず恐るべき病なり急驚は陽症にして慢驚は陰症なり

一小兒の吐乳は乳食停滯より生ずるもの多し乳兒に猥りに穀肉菓菜を與ふるべからず與ふるにも能々考へ合せて害にならぬ滯らぬものを與ふべし吐乳の治療は家方錢伽を用へし妙あり吐乳の症外邪より來るものは發汗すべし外邪に用ふる處の劑を撰用すべし

一吐乳の症停滯より來りて大便秘する者は半夏瀉心加減を用ふべし停滯する處の食物を下すべし吐乳の症より慢驚風を引出す處の食物を下すべし吐乳の症より慢驚風を引出すもの多し多くは不治の症とある灸治針治急驚風に同じ

一急慢驚風に灸すると大中の灸によろし猥りに指の大さの如き灸すべからず幼兒灸に堪かねて活

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

し難し

一初生兒にして腹痛諸樂を用ひて効なく啼泣するものは太白の砂糖を醫者の指につけて小兒の舌の上へのすべし啼泣立所に止む

一胎毒つよき兒七夜前后より眼の上胞下瞼赤く傷爛して厚く腫れ膿汁涙出て閉塞かり開かさるものあり後には大小皆赤筋出て腫れ疼み瞳人終に流れて盲目となるものあり洗眼淸目散或は涼膈散を服用せしめ秋野洗眼方を用て或は蒸し或は洗ふべし大抵洗ひ方一日一夜に十度時々眼中を披きて小より紙の先きを和らかにより先きを少しよりのこし水に浸し眼中へ入て膿水を取るべし此秘治方は小兒の胎毒眼に限らず諸々の眼病赤腫疼痛するものに用ひて大ひに効あり妙々秘すべし

一物にて目を衝きたるには麒麟血を水に浸し其水を眼中にさすべし諸方に勝れりと云ふ

一風毒腫針すへきとき針して膿を出さゝれば毒氣惣身にくゞりて藥呑茶椀を臥せたる如き腫物いくつも出來て後には惣身水腫脹滿の如く腫るゝものなり此の如きものは醫の誤治なりと知るべし腫物へは針して赤龍を付け膿を吸出し荊防九文に加減してくゞる所の毒を解くべし多は治しかぬるものなり恐るべし々々

一風毒腫は二三寸或は五寸一尺四方腫起して外の腫物と違ひて一面にはれて底へ深く腐れこみ上皮は腐らずして生肉なり頭と見ゆる所もなければ針を入るゝと甚だ困難なり然れども醫者の指に明不を付て輕くさすりて試むれば針すべき處は自然と空虛なり此處へ針すれば疼むとなくして

膿水出て易し總て腫物に針するには此法に從ふべし

一小兒齒を痛むもの多し甘味を多食す胃中に熱をたくはへるか故なり涼膈散を用て胃熱をさますべし服するとき初めと終とを含むべし齒痛は齒も痛めども多くは齒齦傷爛して痛むあり附藥は卓吾辰吾へれふす佳あり

一魚の骨咽に立者は山査子を細末となし白湯にて用ふべし魚骨柔らかになりて拔ると云ひ外科正宗に亂麻の法あり是亦骨梗に用ふべし麻苧を鞠の如くに少さく丸め紐を付て呑込み咽喉にて骨の引きかゝりたるを拔出する法あり考へ用ふべし山査子魚毒を治す魚と同しく煮るときは骨をして柔らかならしむ

一煮て温かなる餅の咽に付たる者は酢を咽へ入るべし醉あきときは冷水を入るべし

一物の咽にかゝりたるには扇の親骨を去り小骨を殘し置き紙を水に浸して咽中に入りかゝりたるものを押入るべし

一子供のときには時々耳中痛にて濃汁出るものあり之れ胎毒なり耳中へは枯礬を胡麻油にてとき上澄を耳へさす入るべし痛忽ちに退て耳聾の患なし

一砒石毒にあたりたるには枯礬を用ふべしと云ふ何れ下劑を用ふべし

一誤て金銀銅鐵の類を呑たる者は宿砂仁を煎用すべし其物自から下といふ

一雀目には鰻魚の肝を味噌汁煮にして食せしむ妙なり八ッ目うなぎを味噌汁煮にしてたべさすもよし雀目は脾胃を補ふべし香砂六君子の類錢

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

伽香砂平胃散等を用ふべし夏日暑氣にさわりて鳥目となるもの多し前方或は不換金を用ふべし鯛のきもを同前煮て食するも佳ありかたくり湯くず湯膠胎の類を用て胃の氣を和らげ腹中を和するを上策とす（鳥目より内障眼に變すれそるべし）

一夏日炎暑の時は大人小兒ともかたくり湯葛湯を用て暑を拂ひ腹内を調ふべし大白砂糖を加へ用ると勿論なり養生の道を行ふて病起らさるも亦儉約の一術あり大麥湯も亦よし炒用ゆへし

◉惡阻に就て

惡阻とは妊婦の嘔吐非常に増劇する症にして俗に○○○ツワリの甚しきものを云ふ此症に罹れは各食物は直ちに之を吐き甚しきは胃の空虚あるときも尚は之を發するに至る故に一名妊婦の不停性嘔吐若くは惡性嘔吐と稱す而して妊娠の初月に於て發するとは妊娠百人中纔かに五六人にして多くは自然月を襲ぬるに從て治に趣くものなれ共妊娠第三ケ月の終り頃に至り又稀れに妊娠の半期に於て發するものは間頑固ある性質を有し容易に治し惡きものなり

此頑固なる症に侵さるゝときは食物を取れる各時に於て其一部又は全部を吐出し消化し易からざる食品を望み又屢唾液の分泌を増し嘔吐の反應として全身の狀態著しく障害せられ衰弱日に加はりて精神鬱憂し遂に痩削するに至る而して各嘔吐間に於ける休歇時は漸々短縮して夜間の如きも又屢々之を發し爲めに胃部に疼痛を誘發し食物を見れば甚しく嫌惡し且つ非常に渇を訴へ舌は乾燥して鮮紅色を呈し齒齦は汚穢なる物質を附着し口

内に惡臭を發し脈搏は細かく其數を増し時として發熱するとあり且尿量を減し屢々便秘するを常とす末期に至れば人事不省となり譫語を發し幻覺(見るべき物なきに見へ聞くべきものあきに聞ゆると)を起し黄疸を現はし終に虚脱に陥り又は併發症に罹りて斃るゝものなり

嘔吐物は始め多く透明の粘液を混じ酸臭を帶び夫れより帶黄黑色のものを吐し終に血液を混ずるに至る

妊婦にして此症に罹るときは其經過輕きものは自ら月を重ぬるに從ひ全治すべしと雖ども重症なるときは或は死に先ちて胎兒を分娩するか或は分娩せずして斃るゝものなり而して此症を發すると愈々早きものは常に其經過益々不良にして初妊婦は之に罹ると多く殊に其特異なるは事實上富貴ある妊婦に多しと云ふ

余の目下治療を囑托せられつゝある患者某に就きて其症狀及ひ經過を高覽に供せんとす即ち左の如し

患者　某

滿二十六年

父は腦病にて既に死し母は尚ほ健康三人の姉妹あり各健全なり患者其小兒時には身体強健十四年十ヶ月に始めて月經開き各月大抵定日に月經あり二十一年十ヶ月にして大禮を舉け爾來一回滿十ヶ月を以て男子を分娩したり其他別に遺傳病なし

最終月經は昨明治三十年十二月中旬にして夫れより身体に異常を感せず本年二月一日以來惡心嘔吐を發し食物を嫌惡し日々數回食物及ひ粘液を吐出し甚しき日は一日に十五乃至十六回の嘔吐を發す

るに至れり

三月十五日晩に醫科大學第一醫院產科婦人科病室に入院したり其際之れを診するに身体稍々痩せて舌は白色に蘚苔を被り乾燥し頰は紅色を呈し眼窩は少しく凹み脈搏は頻數腹部は凹み皮膚は乾き呼吸は弱く一見病を恐るゝの狀態を呈したり然れども体熱は普通なりき

直ちに精心及身体を安靜にせしめ藥品を投じたり

十六日	オモ湯	百二十グラム	一日中食後六回嘔吐
	ソップ	五十グラム	
	卵黃	一個	
十七日	オモ湯	六十グラム	一日中三回嘔吐 但し食後にあらず
十八日	オモ湯	四百八十グラム	一日中二回嘔吐 仝前
十九日	オモ湯	二百四十グラム	一日中四回嘔吐 仝前
	赤酒	五十グラム	
	牛乳	五十グラム	
廿日	オモ湯	三百八十グラム	嘔吐なし 唯渴を訴ふ
	赤酒	百グラム	
	牛乳	三百五十グラム	
廿一日	オモ湯	三百グラム	一日中四回嘔吐 全身容体宜し
	牛乳	二百グラム	
	赤酒	五十グラム	
廿二日	カユ汁	二百七十グラム	一日中三回嘔吐
	牛乳	三百グラム	
	赤酒	五十グラム	
廿三日	カユ汁	百八十グラム	一日中五回嘔吐
	牛乳	二百グラム	
	赤酒	三十グラム	
廿四日	オモ湯	一百二十グラム	一日中四回嘔吐
	牛乳	二百グラム	
	赤酒	三十グラム	
廿五日	カユ	六椀	一日中三回嘔吐
	牛肉	半人前	
	日本酒	七十グラム	
	玉子	三ッ	
廿六日	カユ	六椀	一日中午前二回嘔吐
	玉子	四ッ	
	牛乳	百グラム	
	麩煮付	三ッ	

廿七日
カユ　八椀
玉子　三ツ
牛乳　百グラム
サシミ　一人前
麩煮付　三ッ
嘔吐ナシ

二十八日より食氣も病人として比較的増加し一般の容体大に良く今日に至るまで一回も嘔氣なく益々良經過を取るに至れり

抑々惡阻の原因に至りては未だ全く判明せざると雖とも生殖器の疾病、子宮の加答兒糜爛及ひ位置變常等は該症の一原因と看做す所なり又胃腸の疾患例へば慢性アルコール中毒、胃潰瘍、胃癌、頑固なる便秘等亦之れを發し心臟病、腎臟病、腦病も之れを起す殊にヒステリー性の婦人は不停性嘔吐を發し易きが如し強劇なる精神抑壓は時として嘔吐の消失するを以て之を證すべし

療法は醫師に依托するは勿論なれ共家人も其看護を忽せにすべからず例へは一日に何時頃に嘔吐を發すると多きや又は其度數を毎日比較し嘔吐物の性質、色及ひ其分量を記し食物の種類及ひ其量を悉く醫に報告し患者の精神を安んじ成るべく食物に就き患者の側らに於て談話するとなく無用の來訪者を謝絶すべし而して一日數回患者の氣配を見て食物を與へ大小便に注意し身体を清潔に保たしむべし

附言

右惡阻に就き故産科醫賀川蘭齋氏の著したる産科記聞を抄錄し大方の高覽に供す

一惡阻は六十日時分を盛りとす大抵その六十日前より起りて段々劇しくなり六十日時分を最とし夫れより後は又段々に輕くなり食も少しつゝ食へるようになり九十日頃にはなはるようにな

るか一通りよりなり六十日前後にはげしく六月過ても治らぬは惡候なり又五月頃まではかまはぬなり七月頃まで治らぬようになッて必らず死するなり藥劑應するものにあらず元と胎が出來るのなれば墮胎さへすれば良き樣なものなれども全體平生の墮胎にても時によつて死するなり其譯は胎をさすその處に順行しありし血が行かぬようになつて上に滯り甚しき時には心に衝きかけるなり左樣になるようのもの故に決して墮胎して治るとも云はれぬなり斯樣に上逆すると死を待つばかりなり

惡阻の嘔氣一旦やみて九月に至りて又魚の腸のようのものを嘔吐する者なり危き症なり產後に大方嘔氣のやまぬものなり產後に嘔氣が止ぬと死するなり下痢でも嘔氣でも產前から持てすと直らぬなり產婦下利は子生るゝと二三日にして必ず死するなり產後には血崩して下利するなり

一婦人三四月惡阻止みて後臨月復た發し胎又不仁后嘔吐やみて喫ず小便せずして目瞋等のものは危症なり烈しくなると發狂するようになるものなり

惡阻は吐食して食はぬ故に瘦つよくなれとも乳は必ず張りて大なるものなり之れ惡阻の徵なり其上面はやまぬものなり若面の脫するようにみゆるは惡候なり目外の内はあまりおちぬ者なり夫れからおちるようになると惡きなり惡阻では母死ても子を生ことむなきなりそれにも四五月までも惡阻あッてから一旦止みて八九月の處にて惡阻の狀を發して死するは生むともあり又生

れて死せぬともあり子の生ているともあるあり八九月にて生るゝは血の減して養のたらぬ故に子も多くは死し反て生るなり惡阻の三四月より引つゝき七月位か最上なり之は血は下れども其餘りの血が上行して食するとのならぬの故に計らず本復して肥る樣になるともあるなり妊中の勞瘵ば惡阻に似れとも夫れは子が必ず先きに下るものありそれは血不足するとの別なり惡阻は早く子さへ出れば止むものあり血あまりて子の方にとるとあらぬ間にあるなり故に子か大きくなッて血をとる樣になると止むものありなれとも七月頃になると大きあると最早むべきに又取るとがたらぬから血上行して吐食して死するなる全体に下に行くべき血が上に上る故に吐食する樣になるものなり凡そ他病氣は必す母の死すると子は必す下るものなり卒中頓死の類までも必す先つ子が下るものなり夫れが惡阻に限つて子が出ぬものなりと心得べし近頃一婦人十九歳初妊六月に惡阻止まず吐逆食する能はず發熱羸瘦最も甚しく癒へず死せり子果して出でず

惡阻に熱つよきは逆上するあり日光の明りあどを見るとを嫌ふものなり藥をのむ位のものは棄ておきても治るなり四五十日の場藥をやるとも中々應せすなり治る時分に趣くと自ら治るものなり其時に藥をやると治るあり心得て藥をやるべきなり

◉毒物ノヿ

凡そ毒物と名づけますものは割合に小量な身体中に輸入致しまするも理學的の變化に因らずして

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

生物の健康を害し又は死せしむる所の物質を申します而して其狀態と法方との如何を問はず身体中に入りますれば其健康若くは生命を害すべきものであります

毒物は其用量一定度に達してのち始めて毒物となるものでありまして之れも胃と腸より吸收されませねば全身に毒が回りませぬから全身の中毒は起りにくきものでありますそれから又動物の大小に比例致しまして一定量を要します又動物の種族によりまして之れに効を奏し彼れに無効と云ふやうある特異の性質があります又毒物に混ずる佐藥と特物の体内に達する道路とに關係致します即ち毒物を使用致しまする場合におきましては流動性の品を除くの外大抵純粹の品を用ふるは稀でありまして多くは佐藥に混和して用ひます殊に秘密毒殺におきましては佐藥となしますものは諸種の飲料及び食物でありまして此佐藥は其性質に隨ひまして或は毒物の作用を進め又は之を遲延致し或は之を減殺し又は之を全く撲滅致すことがあります毒物能く佐藥中に溶解致しますれば其毒作用を發しますると迅速で強劇であります

中毒死前の症狀は主として毒物の性質と使用の方法とに關するものでありまして其症狀を大別致しますれば毒物に由りて來りまする所の變化及び機能障害の唯毒物と觸れたる部に止まりまするか或は毒物を血中に吸收しまして之を遠隔の臟器に輸送し而して症狀を發しるかの二樣であります

毒物を嚥下しまするの后直ちに胃部及び食道に疼痛、嘔氣を起し烈しき嘔吐を發し腹部緊張致し大

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

に渇を覺へ煩悶し又屢下痢及ひ裏急后重を發し次で暫時にして虚脱に陥り斃れますか或は慢性の疾病と爲りて死しまするか或は不治にて終ります然しながら此症狀のみを以ちて毒物の種類并に中毒の眞否を鑑定致しまするとはできませぬ蓋し他の疾病に因りましても亦此の如き症狀を發するものがありますればなり

中毒せられたるものが若し快方に赴きをするには身体中に在りまする毒物が体外に排泄せられ且つ毒物の爲めに生じましたる變常が治癒するからであります又毒物の一分にして未だ胃中に於て充分溶解せられざる間に嘔吐によりて体外に排泄せらるゝとも必要であります故に嘔吐の起りまするとが速かでありまして且つ強きものは其結果愈々善良であります殊に胃中に於て溶解せざる毒物にして速かに吐出せられますれは中毒症狀を起すまでに參りませぬ又毒物にして變化せずして腸に行き大便と共に排泄せらるゝものであります其他腎臓唾嗽、胆汁及ひ乳汁に由りて排泄せらるゝものもあります

目下外科病室に硫酸の中毒にて入院しつゝ在る患者がありますが此硫酸と申しまする藥汁は皆様御承知の如く工業上汎く使用致しまするが故に之を得まするにも亦容易でありますから東京の如き繁華の都市に在りましては屢々其中毒を目撃します又時々新聞紙にも記載されております一体此酸は僅かに口唇に觸れまするも已に劇烈の腐蝕をあします故に大抵自殺に使用されるのであります偶には不圖中毒を致すともあります

硫酸の中毒症狀と申しまするもの服用後直ちに起

りまして食道及び胃に灼か如き疼痛を發し忽ち嘔氣嘔吐を來たします而して其吐出物は始め强き酸性を備へ褐色を帶びて居りますれとも後には殆んど黑色に變じます顏色窘迫し皮膚蒼白にして冷へ脈細かく數を增し精神は變ずることなく大小便は閉塞しまして暫時にして尿中に蛋白質や血液を混じ飮みたる硫酸が腹中にて變化致しまして硫酸塩類となり尿中に排泄せられます極劇しき症でありますと二三時間前後に虚脫に陷りて死します又稀れには痙攣を起すこともあります又硫酸が胃壁を穿孔致しますれば他の諸症益々增進するに拘らず嘔吐が突然と止みますものであります又氣道の粘膜を腐蝕しまして音聲が嗄れ呼吸困難となり屡々窒息症狀を發して斃るゝこともあります若し經過が延びまして數日に亘りますれば胃管の粘膜の腐蝕部が脫落致しまして往々管狀となりて吐き出だされます此症にありますれば終に肺炎を發します

今病室に在りまする患者は職工でありまして厭世的の忘想より自殺を企てまして工業用の硫酸を飮用致したるものでありまして其量も餘り多くありませず又見附けられてより直ちに入院せしめたるものでありますから餘り重症のではありませぬ唯口中と食道と胃を少しく害せられたるだけにて他の症狀は何にも起して居りませぬ故に治療が行き屆き多分生命を失なふことはありますまいと思はれます何しろ危險なことであります

◎牛肉良否鑑別法

良肉とは無病健康にして滋養分に富み且つ消化し易きものを云ひ惡肉とは其正反對のものを稱す普通吾人の食料とする肉類は種々多しと雖も先づ

牛肉を以て需用第一と見做なさゝるべからず而して此牛肉たるや歐州にて販賣する肉に比すれば幸に我邦に於けるものは比較上危險なる病菌を含むと寡なく加之吾邦人は習慣上能く炙煮して之を食するを以て假令少々の病菌を含むとあるも其菌を撲滅して后に食用に供すれば又幾分か安全と云ふべし然れとも始めより疾病によりて斃れたる牛の肉或は既に腐敗に傾きたる肉類を知りなから之れを食用に供するの愚なし唯識らず知らずして之れを食ふとは屢々之れあるべきと信ず故に肉類を食用に供せんと欲すれば豫め先づ之れを檢査して后之れを食すべきを良とす然れとも其鑑別法を知らざれば又何の詮なかるべし依て左に大略を記載せんとす

牛肉の善良なるものは其色鮮紅にして太理石狀の脂肪紋理を呈し出血の斑點を有するとなし而して脂肪は强硬にして稍帶黄白色を呈し染血斑なく膠樣質及水樣液汁を含有せず又不快の臭氣なく肉は强硬にして彈力を有し濕潤と粘着性なく指壓するに凹痕及爆聲を發せず肉汁は鮮紅色にして少しく甘味を有す而して爽快なる味あり

之れに反して惡肉は暗赤色若くは蒼白色或は兩色を呈し褐色又は變色の斑を有す若し腐敗するときは綠色を呈するものなり脂肪は柔軟にして黄色を呈し出血に因する染色及斑點を呈し膠樣質及水樣液汁を含有す且つ惡臭を放ち容易に抓裂し濕潤又は粘着性ありて指壓するに凹痕を呈す惡肉汁は暗黑色若くは甚しき蒼白色を呈し全く風味なく不快の味あり

大日本婦人衛生會記事

◎四月二日　豫期の如く新宿植物御苑を拜借して春期總集會を開きたり天氣も幸ひに快晴となりしをもて正午頃より會員續々來會し午后二時頃に至りては　小松若宮御息所殿下御臨場あらせられたり役員及會員一同御出迎へをなし暫時別室に於て御休憩遊ばされ夫より高崎別當上野幾子の御先導にて會場へ臨ませられたり會員一同起立敬禮を爲し席定まるや高崎別當には本日　若宮御息所殿下の總裁御息所殿下御代理として御臨場遊ばされたる旨を述べられ次に藥學士丹波敬三君には衛生の實行食物の調理と日常の清潔法等に説及ぼし最後に常會に於ても本日の如く多數會員の出席あらんことを切望す云々と述べられ是れにて暫時休憩夫れより　御息所殿下には片寄御料局技手の御案内にて御苑内及び植物室等御順覽遊ばされたり會員一同へも隨行仰せ付られ一同拜覽を爲したるが庭園は清裝既に整ひ前面には松樹翠綴の一丘ありて池水其左を繞り流水潺々として瀑布是れに懸り池水に架するに一小橋を以てし是れを歩すれば心氣實に爽快を覺ゆ櫻樹は數千株列を爲して眼界遠く及はず開花の候は其盛況想像に堪へたり夫れより順次培養の植物を廻覽するに何れも皆寒冷を防ぎ注意周到培養其宜しきを得るが爲めに豊裕繁茂し茄子の如き既に開花せる者を認めたりき漸次進んで植物館に入る館前の桃花は園丁の妙手を盡し其木ぶりの凡ならざるは人々の嘆賞措く能はざりき館は大小の數館に分るれ共相連綴して内外の植物盡さゞるはなく網羅せざるはなし殊に熱帶地方植物の如き多くは蒸氣鐵管を通じ温度を高むるが故に攝氏の八十度を上下するの部分ありて名も知らぬ目なれぬ花卉草木時知り顏に咲き亂れ或は薔薇の馥郁たるあり或は蘭香の薫ずるありて千態萬狀よく形容すること能はず會員一同拜覽の上再び會場へ歸り茶菓辨當等の接待等あり暫時休憩　御息所殿下には午后四時頃御歸館あらせられ會員も續いて散會せしが歸路曇天催しと變ぜしが降雨とならざりしは大幸なりき當日の來賓には三宅三浦長與田代丸茂其他數人の博士學士等來會せられ會員出席總數は無慮百七十余名に達し頗る盛會なりしと云ふ

◎去二日懇親會の際寄附人姓名左の如しといふ

一金貳圓　　會長　仁禮壽賀子
一金貳圓　　副會長　濱尾作子

一金五圓　評議員　西升子
一金壹圓　會員　淸水とし子
一金參圓　會員　和田福子

廣告

○四月中婦人衛生會入會者左の如し

◉入會者

◉贊成員村瀨淸直君の紹介により
美濃國本巣郡東根尾村字東板屋　北野靜枝子
◉事務所へ申込により
淺草區元鳥越町四十一番地　山路光子
淸國上海横濱正金銀行出張所内　中村久良子
芝田村町十三番地神田方　山崎はる子
◉會員根岸かね子の紹介により
下谷茅町壹丁目根岸方　天貝さた子
同　佐野英子
◉評議員三井晴子の紹介により
麻布飯倉片町三十二番地　齋藤せん子
◉會員淸水とし子の紹介により
牛込區市谷富久町百廿六番地　男爵夫人　安保與禰子
同　安保操子
◉會員鈴木雅子の紹介により
神田區錦町三丁目二番地　大關ちか子
◉副會長濱尾作子の紹介により
本鄕春木町二丁目六十一番地　豊島淸子
◉會員山本政子の紹介により
京橋區西紺屋町八番地山本里子方　牧野文子
同　齋藤いよ子
同　眞山孝子
同　名倉佳多子
同　北野龍子
◉新潟支會へ申込により
新潟市營所通り　特別會員　床次きよ子
新潟市本町通四番町　田中ます子
新潟市東堀通り　安宅ふし子

新潟市本所通り　阿部きく子
新潟市上大川前通四番町　齋藤きい子
新潟市東堀り七番町　齋藤こう子
新潟市東堀通七番町　齋藤らく子
新潟市白山浦一丁目　阿部きみ子

◉轉居者

和歌山縣和歌山市北田邊町六十五番地へ　立石靜子
本區鄉根津宮永町十五番地鈴木なみ方へ　大越幸子
芝區二本榎町一丁目五十六番地へ　大館まち子
仝　大館ふみ子
橫濱市伊勢町一丁目八番地へ　西川ふみ子
廣嶋市大手町八丁目百九十番屋敷　河村孝子
神戶市下山手通七丁目親和女學校內　綿谷禮利子
筑後三池郡大年田町大田大字下里千百六十五番地へ　武田政子
神田區五軒町二十番地へ　須田壽ゞ子
麴町區元園町一丁目十一番地へ　兒島直子
本所若宮町二百十番地へ　田中たか子
麴町區富士見町一丁目五番地へ　田口きみ子
京橋區築地新榮町一番地へ　後藤雪子
牛込區高田町二番地へ　伊藤けい子
京橋區三十間堀三丁目四番地へ　高山らく子
京橋區木挽町一丁目十五番地佐伯方へ　安藝てつ子
益田みつ子

子爵夫人田中いよ子は從前の通り評議員に承諾せられしに付右報告す

新澤支會副會長安原波子評議員小柴ぎく子は各本月より特別會員となられたり

◉正誤

前號雜誌役員姓名中評議員南部隈子とあるは男爵夫人南部隈子の誤り

大日本婦人衛生會

私立大日本婦人衛生會規則

第一條 凡本會の目的は汎く婦女子をして人生の健康を保持するの方法を講究し衛生上の智識を開發せしめ随て社會全般の幸福を増進するにあり

第二條 本會は私立大日本婦人衛生會と稱し之を東京に置く

第三條 本會の會員たらんと欲する者は身分の貴卑を問はす何人にても入會することを得

第四條 會員たらんと欲する者は族籍住所姓名を記し本會事務所へ申込むを可し
但事務所は下谷區練塀町四十三番地に置く

第五條 本會々員を分て修身會員特別會員通常會員の三種とし其會費金を納むる者とす
但終身會員は一時に金拾圓以上を納め特別會員は一年金二圓四拾錢以上を納め通常會員は同金壹圓二拾錢を納むる者とす尤も會員中書生及其他事故ある者は雜誌料として同六拾錢を納めしむ

第六條 男子にして本會の主義を賛成する者は之を賛成員とす其會費は本會員に同し
但本會に功勞ある者は役員の協議を以て終身賛成會員(無會費)とすることある可し

第七條 本會に推戴員を置き其中より總裁一名を奉す推戴員は皇族の御息所等に之を申請するものとす

第八條 本會は左の役員を置く
會長一名 副會長一名 幹事七名 評議員二十名 書記若干名

第九條 會長副會長及幹事評議員は會員の投票を以て之を撰擧し書記は幹事の推撰により會長之を命す
但書記は都合により會員外の婦人又は男子に托することあるべし

第十條 會長は本會を總理し副會長は會長を補佐し又は其代理をなし幹事は會長の命を受けて會務を處理し評議員は重要なる會務を評議し書記は役員の命に從て諸記錄及雜務を掌る
但幹事の分課を設けて第一 會計 第二 編輯出版 第三 庶務とす

第十一條 會長の見込を以て右役員外に會員中より臨時に指名委員を置くことあるべし

第十二條 會長副會長及幹事評議員の任期は一年とす尤再撰するも妨なし

第十三條 會長副會長及幹事評議員は無給料とし書記は相當の報酬を給す

第十四條 本會の集會は七月八月を除くの外毎月一回として通常第一土曜日午後一時より之を開く

第十五條 毎會學識經驗ある者を聘し講義演說を囑し本會々員の演說と共に之を筆記して本會雜誌に掲載し毎月各一冊つゝ無代價にて之を會員に頒付するものとす
但し演說の間に談話を交ゆる事あるべし

第十六條 會員は家族の婦女子又は知己の婦人を本會々場に誘致して傍聽せしむることを得

第十七條 講義演說の際男子の傍聽を禁す
但し會員に縁故ある男子は此限にあらず

第十八條 本會の所有金は本會の名義を以て三井銀行に預くるものとす

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

明治二十一年二月二十八日内務省許可

但些少の金額は日々の費用支出の爲め事務所に引出渚を得

第十九條　會計の收支は總て會計課幹事の捺印を要す

第二十條　會員又は會員外より金圓若くは書籍物品等を寄贈あるときは本會より謝狀を送り且寄贈の品目及其人の姓名を本會雜誌に載せ報告するものとす

第廿一條　會費は郵便小爲替にて東京下谷郵便局へ向け振出しある可し
但不得止場合には郵便券を代用するも妨けなし尤も一割增とす

第廿二條　入會員には會員證を附與すべきに付郵便にて申込の者は郵便券二錢を添ふべし

第廿三條　每年三月九月の總會に於て會計の收支庶務の概略幷に會員の增減等を報告す可し且規則改正の案あれは之を議定するものとす尤も議定は總て多數決とし可否半數なるときは會長之を決す
但至急規則の改正を要する事あるときは豫め會員に報して臨時に之を爲すことを得

第廿四條　三月の總會に於て役員の撰擧をなすものとす

第廿五條　規則の範圍內に於て役員の評議を以て細則を設くることを得

第廿六條　各地方にて發起者十人以上ある者は支會を設くることを得
但其規則は本會の規則に抵觸せざる樣起草し本會役員の認可を經へし

第廿七條　本會の集會場は時々報知する者とす

第廿八條　會費金は受領證を付與すべし尤も小爲替又は郵便券にて納むる者は右受領證遞送費として郵券二錢を添ふべし然らされは受領證は送付せざるものとす

東京下谷區練塀町四十三番地
私立 大日本婦人衛生會

歯科診察

東京日本橋本町二丁目十二番地
午前八時より
午後五時まで

歯科醫　高橋コウ

明治三十一年四月十八日印刷
明治三十一年四月二十日發行

發行所　東京下谷區練塀町四十三番地　大日本私立婦人衛生會

編輯兼發行者　東京牛込區矢來町三番地　田中德三郎

印刷者　同　神田區小柳町十三番地　高良造

印刷所　同　神田旅籠町貳丁目拾一番地　廣業館

明治廿六年四月四日遞信省認可每月二十日發行

（定價金拾錢）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN